

= 受賞 =

坂本弘志教授 日本機械学会北海道支部賞「研究技術賞」を受賞

(機械システム工学科)

機械システム工学科坂本弘志教授は、本年3月札幌で開催された日本機械学会北海道支部年次総会において、平成14年度日本機械学会北海道支部賞研究技術賞を授与されました。対象となった研究は「吹雪障害防止のための新型高性能防雪柵の研究開発」であり、本研究成果が積雪寒冷地における冬期間の道路交通環境の改善に極めて有効であり、その製作と施工を通じ機械工業・土木関連分野など地域産業の活性化に貢献することが認められたものです。

坂本教授は、吹雪による道路交通障害を防止するための既存の防雪柵には機能上問題があること、並びに日本道路公団、国土交通省および各地方自治体等の道路維持管理者から高性能防雪柵開発に対する強い要望があることを背景に、新型高性能防雪柵の研究開発を長年に渡って推進してきました。研究開発の遂行に当たっては、文部科学省科学研究補助金、ホクサイテック財団研究開発産業化促進補助金、ほくでん産

業技術振興基金助成金等を受け、飛雪風洞によるモデル実験および数値シミュレーション解析に基づいて、従来型防雪柵とはその形状が全く異なる新型の防雪柵を研究開発しました。開発された防雪柵には二つのタイプがあり、一つは2車線道路に用いる翼型防雪板を有する吹払い式防雪柵であり、他の一つは4車線道路に用いる翼型誘導板を有する飛翔型防雪柵であります。これら開発された防雪柵は、経済産業省の即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業の採択を受け、実物柵モデルを用いた実証試験によって従来型防雪柵に比べ極めて高い性能を有することが立証され、各方面から高い評価を得ました。その結果、開発された二つのタイプの防雪柵は、北海道はもとより東北地域においても採用され現在、設置総延長は5 km以上となり、その普及は今後急速に増大するものと期待されております。

この度の受賞は、地域に根ざした長年に渡る研究成果が認められたもので、皆様と共に喜びすると同時に、これを契機に更なる飛躍を遂げて頂きますように祈念致します。